

## 「香港中文大学サマースクール（中国語）派遣参加報告書」

京都大学文学部2年 山下萌登

私は大学2回生まで海外にほとんど行ったことがなく、海外留学を視野に入れたことは一度もありませんでした。そのため、本プログラムに参加する前までは、正直、英語や第二外国語として履修している中国語の学習意欲があまり高くありませんでした。しかし、本プログラムに参加して、英語と中国語しか通じない環境に身を置いたことにより、自分の想像以上に話せない・聞けないと感じ、危機感を抱きました。ただ、危機感だけではなく、海外に行かなければ分からない英語や中国語を真剣に学ぶ楽しさや意義を知りました。これにより、語学への学習意欲が増進し、他言語による表現力を高めていきたいと思うようになりました。大学では、中国語・英語の話す技能と聞く技能を高める講義を積極的に受講し、さらなる語学力の向上に努めていきたいと思います。

中国語のスキルが留学以前よりも向上したのはもちろんですが、反政府デモが頻発する香港に3週間身を置き、現地の学生の意見を聞き、人々の暮らしを間近に見ることにより、国際情勢に対して真剣に考える機会が増えました。他人事のように捉えてきた国際情勢を身近なこととして捉え、日本との関係や日本の過去の出来事との対比を軸において考えるようになりました。これは自分の中では大きな変化だと思っています。

前述の通り、私は海外経験が乏しく、海外で生活した経験など今までありませんでした。そのため、最初の1週間はレストランやスーパーで、自分の言いたいことが表現できず、店員の言うこともまともに聞き取れなかったもので、どうすれば良いのか分かりませんでした。しかし、香港での生活に慣れ、一人で町を歩いて買い物をしたり、レストランで食事をしたりする中で、他言語によるコミュニケーションに躊躇いが無くなっていく自分を感じました。母語が通じない心細い状況の中で、自分の意思をはっきりと他言語で伝えるということができていく自分に大きな成長を感じました。

平日の午前・午後2時間半ずつ、計5時間（休憩有り）の中国語の授業がこのプログラムの中核です。そして、クラスは5段階に分けられ、私は下から2番目のクラスに所属していました。午前中は語彙や文法がメインで、一回生で習うような内容も多く含まれていました。しかし、京大の中国語の授業と異なり、文法事項を使って、文や紹介のストーリーを話させるように、文法クラスといえども「活用する」ことに主眼が置かれています。午後はリスニングとスピーキングの授業です。このクラスでは、ランダムに繋がったクラスメートと中国語で会話するという取り組みが行われており、この練習でとてもトーキングスキルが向上しました。それだけではなく、絵に描かれた状況を中国語で説明するという練習も非常に効果的でした。また、スピーキングの課題は録音され、先生によるフィードバックがあるので、発音の誤りに気づき、かなり修正することができました。私のレベルの授業は普通話（標準の中国語・京大で習っている中国語）と英語が併用されていたので、両方の言語能力を上げることが期待できると思いました。英語と中国語の併用といっても、先生はスピードを落として話してくださるので、それほど心配する必要はないと思います。さらに、授業後には無料のアクティビティーも用意されていて、料理教室や工作教室がありました。私はエッグタルト作り教室に参加しました。とても楽しく良い思い出になりました。

最後に進路への影響です。自分は今まで大学院進学を考えていませんでした。しかし、このサマープログラムに参加して、大学院進学を進路の選択肢として考えるようになりました。長期で滞在できたこともあり、日本と香港の比較をしながら、香港の町を徹底的に見る経験をたくさん得ました。そこから、異文化の共通点・相違点をフィールドワークから見いだす学問（文化人類学）に興味を持つようになりました。文化人類学を専攻するにはフィールドワークする時間と知識を学ぶ時間が必要だと考え、大学院進学も視野に入れるようになりました。

最後に、自分の他言語による表現力の低さを知ったことと、臆せず自分の意見を伝えるようになったことの2つが香港中文大学サマープログラムに参加した大きな意義だと私は思います。この文章から少しでも、香港中文大学サマープログラムの様子が伝われば幸いです。